



平成29年11月1日現在	
総世帯数	1,452世帯
総人口	2,664人
男	1,248人
女	1,416人

ヨガ人生

中条東第一町会 町会長
岩佐 仁

四千年以上続くインド発祥のヨガ。元来、僧侶の心身の鍛錬として始まったといわれています。今では全世界に生徒がいて色々な流派に分かれて広まっています。19歳で出会って51年目になり、市内県内では最古参になってしまいました。夫婦共に健康でいられることが何よりありがたいことです。ただしヨガをしているから健康で過ごせるなんてそれは盲信です。当然病気にともないますし、常日頃の精進がもっとも大切です。風邪もひけない身体が健康なんてありえないと思いませんか。早く治る身体作りがバランスのとれた健康体だと思えます。いかがでしょうか。

先日妻が何回目かのインド旅行に行ってきました。今年で「最後の私へのご褒美」と言い始めてから数回になります。その度に私は留守居役



をおおせつかかっています。元気で帰ってきてくれるから嬉しい限りです。今回はヨガのメッカであるリシケシで母なる川ガンジスでの沐浴やヨガアシラムでの鍛錬やアムリトサルでシーク教徒の聖地の見学。ダラムサラでチベット教のダライラマ法皇の特別法話を聞く機会があり内容の濃い旅行だったようです。

何千年も続いてきた自己鍛錬法ですが、自分にとつての健康により深く取り組んでい

くのかは自由です。これが一番なんてないから自分に合った方法を自分で探しましょう。そして長く続けましょう。「継続は力なり」です。お近くの教室で体験してみてください。ご自分の身体が喜ぶ方法がきつと見つかると思います。

少子高齢化と伝統行事の継承について
飯田町二丁目町会 秋山 泰則

少子化と高齢化が市民生活に大きな変化を及ぼしていることは、ごなたも身近に経験していることと思います。

松本市と長野県が文化財に指定している「ぼんぼんと青山様」も市街地では子供の数の減少で、町会単位ではできなくなっています。郊外のいくつかの町会も夏休み早々に一回だけ町内を歩くというもので、かつてのように七夕からお盆まで毎夕行っているところはあまりありません。町会によつては七月のうちに済ませてしまうということも聞きます。

「ヨーガの風」
◆ 毎週水曜日 19時30分
◆ 第二地区福祉ひろば

私共の町会でも小学生は皆無となりまして、ぼんぼんの歌声も青山様の掛け声も久しく聞いておりません。子供がいなくて困るのは天神祭りも同じです。お囃子の笛は保存会のご尽力で録音されたものが使用できますが、掛け声と小太鼓を受け持つのは借り物の子供たちです。舞台を引く大人も高齢者ばかりになりました。先日公民館事業のひとつである親睦マレット大会の折、参加者の前で町会長が「あと僅か町内のほとんどが75歳以上になってしまつ」と憂えておりました。祭りの舞台の引き手がなくなるのです。舞台が町内を練つて行くことができなくなるかもしれません。神道祭りへの参加もむずかしくなるでしょう。

松本市を代表する文化が危機をむかえています。文化というものは民族の生存の証しであり、そこに暮らす住民の心の拠りどころです。天神祭りの存続は深志神社の氏子だけの問題ではありません。ぼんぼんと青山様の市街地での復活も町会の努力だけでは限界をむかえています。

伝統行事、伝統文化はその土地の歴史を裏付けるものです。これらを保存し伝承する

ために、地域と自治体それと第三者を加えて解決策を探すときがきているように思います。

9月10日。第7回子供将棋大会が第二地区公民館で開催された。平成23年より行われている恒例行事だが、今年は地区公民館・福祉ひろばが開館20周年を迎えた記念としてプロ棋士の佐藤紳哉7段と、松本市出身の長沢千和子女流4段による指導対局も行われた。集まった90人が真剣に対局をしていた。

第二地区公民館・福祉ひろば20周年記念事業
第7回子供将棋大会



9月10日。第7回子供将棋大会が第二地区公民館で開催された。平成23年より行われている恒例行事だが、今年は地区公民館・福祉ひろばが開館20周年を迎えた記念としてプロ棋士の佐藤紳哉7段と、松本市出身の長沢千和子女流4段による指導対局も行われた。集まった90人が真剣に対局をしていた。



写真「ぼんぼん・青山様伝承保存会」提供

第二地区公民館・福祉ひろば20周年記念

第20回第二地区文化祭

平成29年11月11・12日

楽しみながら
20年経ちました。



端唄・小唄・都々逸を
楽しんでいます。



20周年記念に全国優勝者に
参加していただきました。



会員募集中です。
第2・4火曜 10:00～12:00



「20年間1回も休まず出来て
よかった。」とのことでした。



文化祭とキッセイ文化ホール
公演にむけてガンバッテいます。



「手足を動かせば脳トレにも
いいですよ」とのことです。



ことばを探すのがむずかしい。
先生のおかげでついて来れました。



(俳句の会)

第二地区公民館・福祉ひろばと20年

今年20周年を迎えた地区公民館・福祉ひろばと共に20年活動をしているサークルを紹介します。大正は「ぶアンサンブル、清流会深志教室、野菊の会、江戸文化愛好会、睦友会、水明書道会、ニコニコ工房、絵手紙の会」です。この節目に皆様から話を聞きました。「仲間の皆さんと仲良く楽しんでいます」とほとんどの方が言い、中には「脳トレのためにもいいよ」と言う方も。悩みは会員の減少で、「新しい仲間大歓迎」とのことでした。

第1回松本マラソン



去る10月1日(日)に第二地区住民も多数参加した第1回松本マラソンが行われました。

乗鞍高原ウォーキング



去る10月18日、市民歩こう運動月間にちなんで、公民館福祉ひろばとの共催で秋の乗鞍高原ウォーキングが行われました。前日まで降っていた雨が嘘のように止み、鮮やかな木々の紅葉が目を楽しませてくれました。

すすき川

十一月も終わりの朝を思い浮かべてほしい。二十年以上昔の冬近い朝だ。田舎にある、広くて古い家の台所を想像してほしい。

これは、1956年に発表された「クリスマスの思い出」というカポテーの自伝的小説の冒頭。離別した両親から離れ田舎の親せきに預けられた7歳の少年といこの老女との、貧しくも豊かなクリスマスをめぐる物語だ。丁寧なまっすぐ生きる2人の姿が透明感のある美しい文章で語られ、読み進むうちに100年近く前のアラバマの田舎に入り込んでしまっている。それはまたいつしか自分の子供の頃の思い出とも重なり、お正月を迎える前の高揚感や、かまどから上がる湯気のおいさが蘇ってくる。そして、心ならずも引き裂かれてしまう不条理。人生の喜びと悲しみが胸に染みる作品であり、時代が移っていても永く読み継がれていくのではないかと思う。残虐な事件や腹立たしい政治の状況から目を離すわけにもいかないが、時にはイノセントな世界に身を置きたい。

(斉藤)